

平成十八年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム・はじめに

著者	尾? 正善
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	12
ページ	1-2
発行年	2007-04
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000424/



〈公開シンポジウム〉 「瑩山禅師の人間観」 『伝光録』の思想的背景

はじめに

司会 尾崎 正善

本日はご多忙中、ご参集いただきありがとうございます。ただ今から鶴見大学仏教文化研究所主催のシンポジウムを開会します。本シンポジウム開催の経緯を簡単に紹介します。「瑩山禅師の人間観」『伝光録』の思想的背景」は、『伝光録』における施陀羅について、副題「瑩山禅師の人間観」という報告書が、昨年四月八日に總持寺から出版されました。遡ると、昭和六十三年（一九八八）に、宗務庁という曹洞宗を統括する包括団体から、瑩山禅師の人柄についての研究をまとめてほしいという要請が總持寺にありました。数回の中断を経て中間報告ですが完成しました。出版はしたのですが、これについての報告の場として、本日お招きした吉田道興先生（愛知学院大学）、宮地清彦先生（曹洞宗総合研究センター専任研究員）、永井政之先生（駒沢大学）、佐々木章格先生等々と相談した結果、当研究所で報告書を踏まえた報告会・シンポジウムを開催することになったのです。

講師の個人的な意見を含め、発展的に瑩山禅師の思想をとらえ、本大学と関係の深い總持寺のご開山・瑩山禅師の人間性、思想的背景を今一度問い直すのが今回の趣旨です。

発表は、矢島道彦先生による瑩山禪師の根本の部分、仏教の業・因果論を、それを踏まえて吉田道興先生には『伝光録』を、最後に、宮地清彦先生に瑩山禪師の思想・行動を明らかにしていただくという順番で行います。

最初に当研究所の所長・学長の柳澤慧二先生よりご挨拶があります。